

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
		分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年と比べて難化し、全体の計算量も増えた。4問ともに半分以上の得点を目指したい。

〈特記事項・トピックス〉

〔3〕が理系〔2〕と類題であり、〔4〕は理系〔4〕と共通題であった。

〈合格への学習対策〉

文系としては、計算量の豊富な出題であり、少しの計算で答えが出る問題はほとんどないと言える。難易度も昨年と比べると上がったが、教科書の章末問題のレベルに収まっているところが多く、ここをしっかりと得点できるようにしておきたい。日頃の学習から、自分の手で「最後まで」計算を進めることを心掛けよう。小問と小問の関連を把握することや、前問の結果を利用することも、九大の出題傾向を考えれば、トレーニングの重要なポイントになろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	記述	Ⅱ	積分法	定積分の計算公式を用いて、2つの放物線で囲まれる面積を求める。3次関数の増減を調べて、最大値を求める。	標準
〔2〕	記述	B	空間ベクトル	正四面体の4頂点の座標を定める。切り口の形(長方形)を把握し、その面積の最大値を求める。	標準
〔3〕	記述	A, Ⅱ	高次方程式, 整数	3次方程式が虚数解をもつことから、その係数の関係を求める。整数に関する条件を用いて3次式を決定し、3次方程式を解く。	やや難
〔4〕	記述	A	確率	4個のサイコロの目の積についての確率を求める。余事象の利用がポイントになる。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。